



佐々木小

第 4 号
令和 4 年 7 月 1 5 日
佐々木小学校
新発田市則清 8 5 6
Tel. 0254 - 27 - 2011

言葉の威力を良い方向で活用する

校長 齋藤 博敏

「気が小さいのか、自分の考えを、自ら手を挙げて言わないのが残念です」小学校の時の通知表に何度か書かれた内容です。これを読んで、「担任の先生が言うとおりに、自分は小心者だ」と思い込み、何事にも進んで取り組む方ではなかった私。

そんな私がどこでどう間違えたのか、中学校では生徒会の役員になり、全校約 700 名近くを前に話をしなければならぬ機会が多々ありました。その度に、小心者の私は、心臓はバクバク、手が震え、声もうわずり、何を言っているのか分からなくなることがしょっちゅうでした。

小心者だった私が、今では、人の前でしゃべる職業に就いています。なぜでしょうか？

中学校の時の話には続きがあります。全校の前で話し終えたある時、「齋藤の話、おもしろいよ」と友だちから言われたのです。「小心者で、いつもオドオドしている俺の話が？」と、その時ビックリしました。信じられないかもしれませんが、この言葉から私は変わったのです。その後は、聞いてくれる人がいると思い、前向きに話すようになったのです。言葉によって、こんなにも変わるのかと感じた瞬間でした。

言葉には、「人を殺す言葉」と「人を生かす言葉」があります。

子どもは、大人から「〇〇はダメな子ね」「何でできないの」と言われ続けると「自分はダメな子だ」と思い込み、その言葉通りに成績などが下がります。逆に「あなたならできると信じているよ」「頭がいいからできるよ」と言われ続けると成績などが上がります。このことは、約 60 年前に、教育心理学者ロバート・ローゼンタールが、実験を行い、主張していました。

言葉の威力を知った私は、今ではその威力を良い方向に活用しています。例えば、子育てや仕事で問題が起きた時、「そうきましたか！」「このことからなぜか良いことしか起きません」とプラスの言葉を使うようにしています。「どうしよう。困った」とマイナスの言葉を使っていた頃は、オドオドし、思考が混乱するだけでした。しかし、プラスの言葉を使うようになってからは、様々な手立てが浮かんでくるようになりました。最近の脳科学から、脳は外部の様子が見えないので、発した言葉通りになるように、勝手につじつまを合わせようとするのが証明されています。ちなみに最も使ってはいけない言葉は、「疲れた」だそうです。「疲れた」と言うと、脳から、より一層疲れさせる命令や物質が出ます。疲れていても「絶好調！」などのプラスの言葉を使うと力が湧いてくるそうです。



最後になりますが、言葉の暴力などで、子どもや周囲の人々との信頼関係を失うのではなく、言葉の威力を子育てや仕事上の円滑な人間関係などの良い方向で活用していきませんか。

今学期も残すところ、2週間足らずとなりました。保護者、地域の皆様には、当校の教育活動に対して、変わらぬ御理解と御協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

夏休みが子どもたち一人一人にとって、よい体験の場となりますことを、教職員一同、願ってやみません。

